

## 1. 参考文献

- ・黒田暁生、『入門金融』第三版、東洋経済新報社、2002年
- ・東短リサーチ（株）編、『新・東京マネー・マーケット』有斐閣、2002年

## 2. 金融市場とは？

- ・各種の金融取引が行われる市場（金融資産の需要者と供給者の出会いの場）
- ・金融取引等の性格によって、取引のパターンが異なる（例：取引所取引 OTC取引）
- ・価格などの情報の取り方：日経新聞、日経金融新聞、TV、ラジオ、インターネットなど

## 3. その1 **取引所取引**

- ・取引が決められた場所・時間帯で行われる。
- ・決められた取引パターン：先物の限月、決済方法、値決めの方法など…**テラーメイドの取引**  
大きな取引を行いやすい（反対売買などでポジションを手仕舞いしやすい）。
- ・市場のデータについて、多くの参加者が共通の情報を持てる。
- ・主な事例：株式、株式先物（日経225など）、金融先物、商品先物など
- ・市場型金融取引に向いている商品でこの形態が多い。

## 4. その2 **OTC取引**

- ・OTCとは over-the-counter の略（「店頭取引」との訳も）：取引の場所や方法が決っていない  
取引パターンはかなり自由：各種の取引条件について**オーダーメイドの取引**が可能
- ・主な事例：外国為替、コール市場、手形市場、CD・CP市場、国債流通市場、私募債など
- ・売買に当たって、ディーラーやブローカーが間に入ることが多い（電話などで連絡）  
+ 最近では「スクリーン・トレーディング」が行われることも。
- ・規格化された商品（市場型金融取引向き）の場合もあるが、相対型金融取引（流動性が乏しくなりがち）のことも。

## 5. 「インターバンク市場」「オープン市場」という分類も

- ・インターバンク市場：市場参加者が金融機関に限られる市場  
例：コール市場（無担コール市場＋有担コール市場）、手形市場など
- ・オープン市場：非金融部門（一般事業法人や官公庁共済組合なども含む）も市場に参加  
例：TB（割引短期国庫債券）市場、FB（政府短期証券）市場、債券現先市場、債権貸借（レポ）市場、CD（譲渡性預金）市場、CP（コマーシャルペーパー）市場など

## 6. 市場の厚みと市場間の連関

- ・金融商品や時期により取引の繁閑は大きく異なる 市場が薄い場合、いざという時に換金できないことも勘案する必要（リスク大）
- ・金融商品間で裁定取引（リスクなしで収益を得られる取引）が発生 市場間の連関  
最も簡単な事例：東京証券取引所と大阪証券取引所で異なる価格が成立した場合など

以上